

先週の講壇から

「アンプラグド」

ヨハネによる福音書 15章1節～10節

聖句「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。…わたしにつながっていない。わたしもあなたがたにつながっている。」(15:1,4)

1. 《プラグイン》 昨今では、生成 AI ソフト「ChatGPT」に、礼拝のメッセージを作らせている牧師もいるそうです。聖書箇所を入力すれば、一瞬で人工知能がそれらしい説教を仕上げてくれるらしい。やがては AI 自身が学習を重ねて尤もらしい代物になることでしょう。しかし「どうかしている」と言うなら、既に私たちもメールや LINE の遣り取り、直接に顔を合わせるよりも、電話のお喋りの方が楽なのです。プラグ（電気回線）で繋がる関係なのです。
2. 《繋ぎ直す業》 英語で「宗教」は「レリジョン／religion」と言いますが、その語源はラテン語の「レリギオー／religiō」です。「レリゴ／religō／繋ぎ直す、結び上げる」という動詞から来ているのです。神さまは人間との関係を修復して、新たに組み直されるのです。神に召された私たちも互いに繋ぎ直されるのです。それ故、信仰には共同体が必須です。「教会」とは建物のことではなく「主にある交わり」や「兄弟姉妹」のことです。イエスさまの御言葉から見えて来るのは、主が為さっていたことは何もかも、この「繋ぎ直し」の御業だったということです。関係性は「重荷、軛」でもありますが、その繋がり（信仰の共同体）は、色々な人たちと「共に生きる者」として、あなたを生かしてくれるのです。
3. 《ライブ感覚》 「ギター的神様」と呼ばれたエリック・クラプトンが、1992年に「アンプラグド」という CD を発表しました。エレキではなくアコースティックギターだけのアルバムでした。それに触発されて「MTV アンプラグド」というライブ番組も始まりました。「アンプラグド／プラグに差し込まれていない」と言っても、別に生ギターや生ピアノに限定されている訳ではありません。そのアーティストの演奏が「ライブ／生き生きしている」という意味だったのです。教会もまた「アンプラグド」でありたいと思います。子どもたちも今の若い人たちも、私たち自身も様々なプラグで繋がれています。私たちが先ずプラグを抜かなくては、家族や友人たちとの関係も変わりません。私たち自身が「ライブ感覚」を取り戻さなくては、周りの人たちも決して生かされないと思うのです。

朝日研一朗牧師